

道徳科学習指導案

令和2年11月27日(金)第5校時 第1学年

- 1 **主題名** 差別や偏見のない社会の実現（内容項目 C－（11）公正、公平、社会正義）
資料名 「人の値うち」（江口いと 人権の詩より）

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値

本主題は、学習指導要領の内容項目C－（11）「正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」をねらいとしている。世の中には不条理な差別や偏見が今も残っている。差別や偏見のない社会の実現のためには、さまざまな場面で差別や偏見に気付き、見抜く力を身に付けることが必要である。また、人々が互いの権利を尊重し合いながら幸せに暮らすには、自らの言動が他人を傷つけるなどしていないかを判断して生活することが大切である。身の回りにある差別や偏見と自分のこととを関連付けながら問題解決に向け考えていくことで、誰に対しても公正、公平に接し差別や偏見のない社会を実現しようとする態度を育成したいと考え本主題を設定した。

（2）生徒の実態

省略

（3）資料について

「人の値うち」は、「人権の詩 江口いと著」（明石書店）から引用した詩である。本資料は、作者の江口いと自身の体験をもとに書かれており、同和問題にも触れられているため、公正、公平、社会正義の内容項目を扱う学習への導入として有効な資料である。

江口いとは、愛媛県四国中央市出身で、25歳で結婚。二児の母親となつてすぐに、夫を戦争で亡くした。被差別部落出身という理由で、息子、孫の三代にわたつて差別された江口いとは、生活の中から自然にあふれる思いや、部落差別に対する怒りを詩や短歌にした。また、差別解消に向けた講演も意欲的に行い、多くの共感と感動を呼び、差別のない社会が一日も早く訪れることを願いながら、生涯をかけて差別と闘った人である。

この詩に込められている江口いとの願いをしっかりと理解し、「このあやまち」というキーワードをもとに、自分事として課題に取り組む姿勢を呼び起こさせる資料として活用したい。

3 指導方針

○事前指導として

- ・同和問題については、近世の社会制度によって差別された人々がいることを、社会科の歴史学習で取り扱っておく。（古代の戦争により、負けたクニの人々が奴隷となった歴史や、現在の被差別部落が、江戸時代の身分制度の名残であることなど）

○本時の学習として

- ・部落差別、服装、学歴など世の中には様々な差別や偏見があることに気付かせ、自分たちの身の回りにも同様のことがないか考えさせる。
- ・詩の内容を理解しやすいように、生徒になじみのない「もんぺ」「羽織」などについては、視覚教材を用意しておく。
- ・道徳的価値について多面的・多角的に考え、理解を深めるため、自分事として考えられるような教師からの問い返しを工夫した上で、生徒が考えたり交流したりする時間を十分確保する。

- ・三密に配慮しながら、小グループでの意見交流を進めるため、各自が書いたものを交換して読み合ったり、机の向きを変えずに隣席で距離をとって話し合ったりさせる。

○事後指導として

- ・今後の学級活動や学年行事などの学校生活の中で、公正、公平に判断できるよう支援や声かけを行っていく。
- ・社会科の授業などで再び関連する題材を取り扱う時には、この題材について振り返りながら学習できるようにする。

4 人権教育とのかかわり

わが国固有の人権問題である同和問題の解決を図るため、「部落差別の解消の推進に関する法律」が平成28年12月成立・施行され、国や地方公共団体を中心にさまざまな取り組みが進められてきた。その結果、同和問題は解決の方向に向かってはいるものの、インターネット上での同和問題に関する差別情報の流布など、新たに情報化の進展を背景とした問題も顕在化している。

中学校では、歴史学習や人権学習の授業の場でさまざまな差別や偏見について知る機会はあるが、身近ないじめやからかいなどをのぞいて、生徒が日常生活の中で部落差別問題に関わる事象について触れる機会はまれで、同和問題について理解を深められていない現状がある。

本学習を通して、人権侵害はどんな些細な偏見や差別も許してはいけないことを理解し、身近な家族がいわれのない差別を受けていた江口いとこの詩を通じて、その深い考えに共感させることにより、部落差別解消を含めた公正・公平な社会を目指す意識を高めていきたい。

5 本時の学習

(1) ねらい

「人の値うち」という江口いとこの詩から、身の回りにはさまざまな差別が存在していることに気付かせることを通して、公正、公平な視点に立って判断できる力を育てる。

(2) 準備

- ＜教師用＞ 掲示物（江口いとこの写真、経歴など）、テレビモニター
- ＜生徒用＞ ワークシート、「人の値うち」の詩

(3) 人権教育の視点【育てたい態度・能力】

- 知性： 同和問題をはじめ、さまざまな差別や偏見について知る。
- 判断力： 同和問題をはじめ、さまざまな差別や偏見について、公正、公平に判断する。

(4) 展開

過程	学習活動 主な発問（□） 予想される生徒の反応（・）	時間	指導上の留意点
導入	<p>1. 事前にとったアンケートの結果を提示し、本時の学習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は差別だと思ったが、中にはそう思わない人もいるんだなあ。 ・差別や偏見かどうかによって人によって考えに差があるなあ。 ・私は住む場所や、性別で分けたら差別だと思う。 ・勉強ができるかで判断するのは、差別なのかな。 <p>【めあて】 差別や偏見のない社会の実現のために、わたした</p>	5分	<p>○アンケートの中で、生徒が身近な差別や偏見として考えてほしい内容を提示することで、生徒の問題意識を高め、道徳的価値への意識付けを行う。</p> <p>○差別の中で葛藤してきた人物の詩を読んで、差別や偏見をなくすために</p>

	<p>ちはどうすればよいだろうか。</p>		<p>はどうしたらよいかを考えていくことを伝える。</p>
展開	<p>2. 「人の値うち」の詩を読み、江口いとの略歴とともに、題名にこめられた意味について知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">江口いとさんは、どんな人でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住地が部落で、子どもや孫も差別された。 ・詩や講演で差別について人々に伝え、なくそうとした。 <p>3. このあやまちについて理解し、なくすための考えを出し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○いとさんのいう「このあやまち」とは何のことですか？</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◎どうしたら、このような差別や偏見に気付くことができるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人を見た目（服装）で判断する。 ○人を肩書き（学歴）で判断する。 ○人を生まれた場所（家柄）で判断する。 ◎自分でも嫌だな、変だなと思ったとき。 ◎誰かが言っていたけど、「本当にそうか」「違いかもしれない」と考えるようにしたら。 ◎相手の気持ちを考えることが大事だと思う。 <p>4. 差別や偏見に気付けば、正しい行動ができるのか、について話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ、差別や偏見はなくなるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かめずに、鵜呑みにしてしまうことがある。 ・見た目が変だと思ってしまう。 ・友達に言われるとそうかなと思ってしまう。 ・見て見ぬふりをしてしまう。 ・差別や偏見に気付いても、怖くて言えない。 ・自分に被害がないなら、行動しない。 	<p>10分</p> <p>20分</p> <p>10分</p>	<p>○部落差別については、あらかじめ社会科の授業で概要を確認したり、小学校での道徳を想起させたりすることで、生徒の理解を深めておく。</p> <p style="text-align: right;">【知性】</p> <p>○「このあやまち」という言葉について、最後に考えることを事前に伝えてから詩を読むことで、気付きやすくする。</p> <p>○意見をもてない生徒には、題名である「人の値うち」という言葉に着目させ、考えさせる。</p> <p>○自分たちの身の回りにも「このあやまち」と同じようなことがあるか、補助発問を投げかけ、より自分事として考えさせる。</p> <p>○自分では差別だと思っていなかったが、差別かもしれないと気付いたことがないか、意見を出させる。</p> <p style="text-align: center;">（価値理解）（他者理解）</p> <p>○4の発問で再度考えさせる中で、アンケート結果についてもふれることで、自分事として考えさせたい。</p> <p>○差別や偏見だと分かっているにもかかわらず、ならない理由について考えさせる。その際、差別や偏見に気付いている、公正・公平に行動することの難しさについて気付かせたい。</p> <p style="text-align: center;">（人間理解） 【判断力】</p>
終末	<p>5. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">差別や偏見をなくしていくために、今日感じたことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別と思っていなかったことが、差別だと知って、気を付けなくてはと思った。 ・気を付けているつもりでも、使っている言葉が差別になることもあることを知った。 ・でもまだ勇気をもって言えないかもしれない。 	<p>5分</p>	<p>○今日学習したことについて考えさせる中で、自分を振り返ることに繋げていきたい。</p> <p style="text-align: right;">（自己理解）</p>

(5) 評価

- さまざまな差別について知り、身近なところにも差別があることを多面的・多角的な視点か

ら気付くことができていたか。

○江口いとこの詩について学んだことで、正しい判断に基づいた言動について自分事として考えることができていたか。

(6) 板書計画

アンケート結果	テーマ 公平・公正・社会正義 人の値うち〜江口いと めあて 差別や偏見のない社会の実現には、わたしたちどうすればよいのだろうか
「このあやまち」とは何ですか	
・人を見た目、肩書きで判断する。 ・生まれた場所などで〇〇だと思いつむ。	
☆どうしたら、このような差別や偏見に気付くことができるのでしょうか。	
自 自分だけの思い込みだけで、言わないように気を付ける。	
友 「傷つけてしまうかも」と相手のことを考えて言う。	
自 「本当にそうかな」と考えて話を聞く。	
友 自分で嫌だなと思うことは、差別や偏見じゃないかなと考える。	
☆なぜ、差別や偏見はなくなるのでしょうか。	
・見た目が変わると、つい笑ったりしてしまふ。 ・誰かが言っていると、そうかなと思ってしまう。 ・後で考えると分かるかもしれないけど、そのときは気付かない。 ・自分に関わりがなければ、そのままにしまふ。 ・差別や偏見に気付いても、怖くて注意はできない。	
ふりかえり	